

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第1回)

- 1 日時 令和6年6月13日(木) 9:45~12:00
- 2 場所 海老名市立有馬小学校 校長室
- 3 出席委員 山口 慎二委員長、古郡 宗正委員、村山 紀行委員、小松 明委員、
奥谷 婦貴子委員、小林 里実委員、住田 晶子校長、前田 潤子教頭、
徳山 敬倫総括教諭

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

(2) 委嘱状交付

4月より新規委員の小林委員と継続委員へ委嘱状交付。

(3) 会長の選出

会長に、山口委員を選出。

(4) 学校運営協議会、令和6年度の学校運営について

住田校長：学校運営協議会、学校要覧、学校グランドデザイン、いじめ防止基本方針、年間行事予定について説明。

「地域とのつながりを大切にしたい学校」を目指して、地域の教育力を学校行事や教育課程で生かし、豊かな学びにつなげていきたい。

徳山総括教諭：教育課程、モジュール授業、校内研究について説明。

古郡委員：学年関係なく昔から風通しのよい有馬小のよさを残して欲しい。

住田校長：地域の協力していただいていることに学校も何か返していきたい。

山口委員長：「いじめ防止基本方針」の子ども向けのものがありますか。

住田校長：これは、大人向けのものです。

古郡委員：授業時間を減らして主体的、対話的で深い学びに時間をかけることが大切ではないか。子どもの学びを保障する時間を生み出すことが難しいのでは。

徳山総括教諭：確かに主体的、対話的で深い学びは時間がかかるし、教員の負担増もある。月、金の学習指導が5校時で終了することで教材研究の時間を生み出すことができる。

古郡委員：下駄箱、有馬の小径のような学年を超えた学びの実現も継続してほしい。

村山委員：現在、有馬小にいじめはありますか。

住田校長：強く言われて傷ついた、というような内容ではある。その都度担任が入り解決できるレベルのもの。

小松委員：経験を積んで調和をとって次の日、嫌なことも忘れて登校する経験で強くなって社会に出てほしい。教員も支援してくれたらと思う。

小松委員：働き方改革の面から、教師のモチベーションはどうでしょう。先生方は疲弊していませんか。

徳山総括教諭：確実に改革が進んでいる。有馬小の教員はよい表情で働いている。学年を超えてよく連携している。

奥谷委員：有馬小の自由さ、積極性が有馬中でも継続しているようで、学年代表の名前にどのクラスも有馬小出身児童の名前があるのが嬉しい。

山口委員長：令和6年度の学校運営についてご承認いただけますか。

委員一同：異議なし。

(5) 意見交換

古郡委員：学校には書類なし、見積もりなし、伺い書なしでも自由に使えるお金が必要であると考え。急に必要な場合、教材を買うことができないのでは。

住田校長：昨日も1年生がシャボン玉の液や道具を購入していたが、学校予算からの支出ではない。

前田教頭：30万、50万でもよいので、そういうお金があると、さらに主体的、対話的で深い学びが推進できると考えている。教頭職がお金の事務処理に追われている現状がある。

村山委員：使わなければ返せば良いというシステムにすればよい。

古郡委員：政治家だって、伺い書や報告書がないのに…。

小松委員：昔は、PTA会費の残額を教材や事務用品購入等に充てることもあったが。

住田校長：情報発信を紙からメールやインスタグラムへ移行していこうと考えている。みなさんのご意見を伺いたい。

小松委員：インスタの世代層は20～30代であり、その層へのアナウンスとしては効果的なので、ボランティアの募集に最適。HPはアクセスが手間である。インスタをすすめます。

奥谷委員：給食の献立が出先からスマホで検索できると夕飯のメニューが重ならなくて助かる。

小松委員：電子での発信は保護者に情報が確実に届く。慣れていない世代へのフォローが必要だ。スクラップアンドビルドで、電子をやるなら紙をなくして事務量を軽減するとよい。

住田校長：2学期から電子発信を始めたいと思います。

(6) その他

次回の、学校運営協議会は、令和6年11月12日（火）9:45から開催予定。